

～教育実習終わりました～

□ 今年度の教育実習の概況

今年度は23名の学生が、北は北海道、南は沖縄県まで、出身校を中心に教育実習に臨みました（都合により本県を希望した県外出身者の学生は2名）。

都道府県	中学校	高校	計
北海道	1	3	4
青森		1	1
岩手	1		1
秋田	市内	2	5
	市外	1	1
山形	1	2	3
福島		1	1
茨城		1	1
群馬	1		1
千葉		1	1
富山	1		1
石川	1		1
京都		1	1
沖縄		1	1
計	9	14	23

R7年度 教育実習の概要（単位：人）

今年度は5月～6月にかけて教育実習を行った学生が15名、8月～9月にかけて教育実習を行った学生が8名でした。全国的に教員採用試験の実施時期が早まる傾向にある中で、今後の教育実習の実施時期がどのように変更されていくのか注視する必要があります。

教職支援室の専任教授5名は、担当を分担し、全ての学校の研究授業を参観しました。教育実習の研究授業参観後の報告には、次の感想がありました。

- いつもはやや不安げな顔をすることが多い実習生であるが、自信に満ちて輝いた顔をしていた。彼女にとっては一気に成長した3週間になったに違いない。
- 教育実習期間中に弱音を吐いたり、嘆いたりしないか心配だったが、意外に芯の強さをもっており、へこたれずに挑戦したことに感嘆している。
- 研究授業は、指導教員の適切な助言のもと、美大生らしいこだわりのある鑑賞活動が展開されていてうれしく感じた。
- 指導担当から、教員としてやっていく力は十分にあるとの言葉をいただいた。今回の実習は本人にとって今後の進路選択の一つとなる意義あるものになったのではないかと考える。
- このたびの実習を通して、教職志望の思いを強くしたようである。教職の魅力とやりがいを味わわせてくださった実習校の先生方や生徒たちに感謝したい。

□ 「教育実習事前事後指導」

鳴門教育大学副学長 梅津 正美 先生の講話

本年度は、大学間連携協力協定を結んでいる鳴門教育大学の副学長である梅津正美先生をお招きし、「教師として成長し続け

る力を育む契機となる教育実習—授業経験をどう振り返るか—と題し、講演をしていただきました。教育実習を終えた学生の皆さんにとっては、教育実習の意義や今後の自分の目標を改めて確認する貴重な時間となりました。

梅津先生は、「教師として成長し続ける力を育むため」として、主体的に課題を発見する力を育むとともに、自らの「成長」を捉える視野を広く柔軟に持つこと、協働的対話を基盤とした課題解決の方法・プロセスを学び実践すること、自分の行動や努力を認める感情（自己肯定感）や困難な状況であっても「やればできる」という期待感（自己効力感）をもつことの大切さについて熱く語っていただきました。

学生の皆さんは、協働的な対話において、教師（評価・助言する者）と生徒（評価・助言される者）という垂直な関係ではなく、それぞれの立場から授業について考えたこと、感じたことを出し合う水平的な関係が重要であるとの説明に共感を覚えたとの感想が多くありました。



□ 「教育実習日誌」より

教育実習を通して何を学んで何に気付いたのかなど、教育実習日誌から紹介します。

- 休み時間や放課後などの時間を通して、生徒との関係づくりの大切さを実感した。授業だけでは見えない一人一人の個性や興味が垣間見え、そうした日常の中で信頼関係を築くことが、よりよい授業づくりにつながるのだと強く感じた。



- 教師が生徒を認めたり、褒めたりする場面の積み重ねによって、「自分が認められている」、「存在を受け止められている」という実感につながり、それが授業中の安心感や主体的に学ぶ態度に直結しているのだと感じた。
- 教育現場では、「木を見る視点（個を見る）」と「森を見る視点（全体を見る）」の両方が求められることを実感した。授業中にはクラス全体の空気感を読みながら、個々の生徒の反応に目を配り、必要な支援や声かけをタイミングよく行うことが求められる。そのためには、日々の観察と信頼関係の積み重ねが何よりも重要であり、それこそが教育の基盤となるのだと改めて学んだ。
- 先生方が普段どれほど多くの業務を抱えながら、生徒一人一人のことを真剣に考えているかを目の当たりにし、「教師」という職業の尊さと覚悟を感じた。



学校体験実習 1 を終えて

○はじめに

「学校体験実習 1」では、前期の「教職入門」を踏まえ、「学校の組織的な取組と指導体制」というテーマのもと、秋田西中学校における訪問体験実習や事前事後のグループ協議、講話会などを通して、「学校における組織・チーム」についての理解を深めました。

10月7日(火)	講話「教職と作家活動」 岩手大学 竹本悠太郎 講師
10月14日(火)	履修カルテの作成
10月21日(火)	事前の活動
10月28日(火)	・講話会Ⅰ(秋田西中学校長)
11月4日(火)	・秋田西中学校の運営組織
11月11日(火)	・訪問時の留意事項
11月18日(火) 7:40~12:00	秋田西中学校訪問体験実習 ・朝の生活の観察、授業参観 ・講話会Ⅱ(生徒指導主事) ・講話会Ⅲ(若手教員)
12月2日(火)	事後の活動
12月9日(火)	・グループごとの分析・考察
12月16日(火)	・レポートの作成



登校指導



朝の会観察



学年部の打合せ



授業参観

<訪問体験実習の日程>

8:00 ~ 8:10	登校の様子、登校指導の観察
8:10 ~ 8:35	朝自学、朝の打合せの観察
8:35 ~ 8:45	朝の会の観察
8:50 ~ 9:35	はじめのセレモニー 講話会Ⅰ(生徒指導主事)
9:45 ~ 10:30	授業参観
10:40 ~ 11:25	講話会Ⅱ(若手教員) 終わりのセレモニー

○講話会Ⅰ

10月28日(火)には、秋田西中学校の渡邊久人校長先生をお招きし、学校経営における組織・チームの重要性についてお話していただきました。



渡邊 校長先生

学校教育目標の具現化に向けた経営方針や具体的な取組について説明いただくとともに、校長として心がけていることや、諸課題に対して組織で対応することの重要性をご教授くださいました。

○秋田西中学校訪問体験実習

11月18日(火)には、秋田西中学校での体験実習を行いました。早朝から学校を訪問し、登校指導をはじめ、朝自学、職員打合せ、朝の会、休み時間や授業の様子など学校生活全般において、生徒の主体性や社会性を育むために、先生方が生徒にどのように関わり、どんな働きかけをしているかなどの視点で観察することに努めていました。また、生徒指導主事の佐原賢一先生と採用2年目の長澤のぞみ先生から、それぞれ組織的な取組の実際や、学級経営において心がけていることなどについてお話していただきました。

○事後の活動

12月2日(火)以降は、訪問実習を通して気付いたこと、感じたこと、学んだことを班ごとに分析・考察する活動を経て、「学校の組織的な取組と指導体制」というテーマに迫るプレゼン資料の作成に取り組みました。報告会では、各班から鋭い着眼点や優れた分析力に基づく発表が続き感心しました。今後の授業研究・授業実践に生かしてほしいと願っています。



報告会

学校体験実習2を終えて

学校体験実習2の取り組み内容

本年度の学校体験実習2には35人の皆さんが参加しました。1班4人から5人編成で、10月1日を皮切りに12月17日までの計15回の実施となりました。

10月1日の1回目の授業で講座全体の流れを説明し、2回目には山王中学校中尾裕子先生、3回目には秋田南高校平野則夫先生を講師として招へいし、学校での実際の授業について講話をいただきました。

これらの講話から学校現場での授業イメージをふくませ、4回目からの3回の授業では、尾澤先生と大関先生が作成した

指導演をベースに、班単位で授業実習に向けて準備を進め、5回目と6回目の授業では、それぞれの班が導入と展

開部分にかかる内容を模擬授業として行い、先生方からいただいた指導や助言を指導演の修正に繋げる等の作業を行いました。

本番となる体験実習1回目は11月19日に秋田市立御所野学院中学校と秋田県立秋田南高校で、2回目は11月26日に秋田市立山王中学校と秋田県立新屋高校で実施しました。

実習校では2つの指導演をベースに授業が展開されました。中学校ではアートカードを活用した授業と箸づくりをテーマとした授業の2つ、高校では絵の具作りとデザイナーズチェア鑑賞の2つの授業が行われました。

どの班もそれぞれの授業の目的の達成に向けて試行錯誤を繰り返して本番に臨み、緊張の中でも精一杯の授業を展開することができていました。

実習終了後に実施した2回の授業では、体験実習の振り返りと班単位での体験実習の報告をプレゼン形式で行いました。そして最終回となった12月17日の授業では、講座全体の振り返りとしてレポートを作成しました。

体調不良や介護等体験実習などとの重なりのため欠席する人もいましたが、概ね良好な出席状況でした。授業ではグループワークを通して互いの意見や考えを積極的に吸収する機会を多く設けました。

全15回の授業を学校現場での実際を現役教員の講話を通して確認し、学校体験実習で学校現場の状況を肌で感じ、実習後に成果と課題として

まとめ、次年度の教育実習に繋げるとする3段階の構成とし、学びを深めていきました。

学校体験実習2を振り返って

第1回の授業において、この講座が次年度の教育実習への大切なステップである点を強調し、しっかりとした目的意識を持って授業に臨むことが大事であることを確認しました。

その後の授業では、お互いに協力して積極的に活動する姿が見られるなど学生の皆さんの意欲の高さを感じることができました。ここで講座の振り返りとして、最終授業で作成したレポート「実習授業等を通して気付いたこと、学んだこと」から感想をいくつか紹介します。

- 実際に授業を行ってみて、生徒たちの和気あいあいとした雰囲気が印象に残っている。講評では、「導入の説明の丁寧さが生徒たちの安心に繋がった。何をしたいか(ゴール)が伝わっていた」と評され、授業を練る上で大切にしていたことが現場で通用したことに喜びを感じた。
- 私はこの実習授業を通して、授業は教師(自分)だけでなく相手がいることを改めて痛感した。相手に伝え、楽しみを見いだしてもらえ、その喜びを知り、そのために自分は工夫をしていくべきなのかを学んだ。
- 今回デザイナーズチェアについての鑑賞の授業であった。しかし、授業の進め方にしか時間をさくことができず、生徒になかなか知識面で伝えることができなかった。

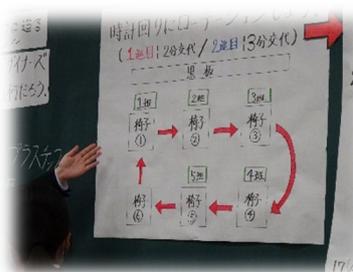


今後、技法や鑑賞の授業を行う際は、それについての知識も間を見て頭に入れなければと感じた。

皆さんは美術関連の知識と技能を

習得すると平行して教職課程の履修もあり、他の学生に比べて時間の制約や精神的なプレッシャーを感じていたことと思います。そのような状況にあっても皆さんは授業に参加し、同じ教職を目指す仲間とともに意見を交わしながら学校教育についての自らの考えを修正・深化させてきました。また、中高での実習を通して授業を行うことや生徒対応の難しさについても多くの学びを得てきました。

皆さんには是非ともこの経験を次年度に控える教育実習に生かして欲しいと思います。まずは今回の実習での成果と課題を振り返り、実習で使用した指導演の改善・充実を図って欲しいと思います。その過程で疑問が湧いたり不安な部分があったりしたら、私たち教職員に相談して下さい。互いに協力しながら、次年度の教育実習はもちろん、将来の教員へと繋がるステップを踏んでいきたいと思っています。皆さんのこれからの頑張りに期待しています。



介護等体験実習を振り返って

今年の介護等体験は4回の事前授業を経て、6月から12月にかけて、次のような社会福祉施設と特別支援学校で実施されました。中には、付近で熊の目撃情報が多い体験先もあり、毎日ビクビクしながら通ったという学生もいたようです。それでも大きなトラブルもなく32名全員が体験実習をやり遂げ、「介護等体験証明書」もいただくことができたことはたいへんうれしいことです。たいへんお疲れ様でした。

ところで、日常生活とは全く異なる環境の中で、介護や支援を必要とする方々やスタッフの方々とふれあいから、皆さんは何を感じ、何を学びとってきたのでしょうか。この科目の最終授業はそれをみんなで共有し合う「介護等体験報告会」が主な内容になります。皆さんの心のこもった発表を期待しています。



【最終授業（事後指導）】

- 期 日……………2月2日（月）2・3限
- 教 室……………講義室4
- 主な内容……介護等体験の報告（32名）と講義等

【今年度お世話になった体験先一覧】

社会福祉施設（体験日数：5日間）

- 介護老人保健施設
ふれ愛の里（1名）
- 特別養護老人ホーム
新成園（1名） 高清水寿光園（2名）
中通（3名） 松涛園（4名） 寿恵園（1名）
うぐいす城東（2名） 新成園（2名）
ケアコンプレックス寺内（2名） たけのこ（1名）
- デイサービス施設
外旭川デイサービスセンター幸（1名）
やすらぎホームけやき（2名）
リンデンバウムいずみ（3名）
- 乳児院
秋田赤十字乳児院（4名）
- 母子支援施設
聖園天使園（2名）
- 児童養護施設
感恩講児童保育院（1名）

特別支援学校（体験日数：2日間）

- 秋田県立視覚支援学校（1名）
- 秋田県立聴覚支援学校（4名）
- 秋田県立秋田きらり支援学校（1名）
- 秋田県立栗田支援学校（16名）
- 秋田大学教育文化学部附属特別支援学校（9名）
- 秋田県立支援学校天王みどり学園（1名）

～教員採用試験情報～

◇後期教員採用試験セミナースタート

後期の教員採用セミナーが10月15日からスタートしました。12月末現在で、4年生1名、3年生4名、2年生6名、合計11名の学生が参加しています。令和5年度から3年生の前倒し受験を採用する自治体が出始め、今年度は約8割にも及ぶ自治体が3年生受験を導入しています。但し、校種が限定されたり、合格して次年度の一次試験が免除になったとしても、募集のない教科があったりすることから、各自治体の募集要項を確認することが必須です。いずれにしても早めに準備することは、教員採用試験の傾向をつかみ、十分な対策を講じられる有効な手立てとなります。

◇先輩からのアドバイス

今年度、教員採用試験に臨んだ4年生で3名が合格しました。教員採用試験の受験者数が減少する傾向が続くものの、美術科の募集は若干名が大半であり、4年生の努力に敬意を表すとともに、教員採用試験の合格に心からお祝い申し上げます。

さて、後期教員採用試験セミナーのガイダンスの際に、2人の先輩から受験に向けてのアドバイスをさせていただきましたので一部紹介します。

Q: 教員採用試験に向けて、どんな準備をしましたか？



A: 過去問を繰り返し解いて傾向をつかみました。また、一週間のうち教採セミナー以外に勉強する時間を設けました。

A: 3年生の12月頃から受験勉強を始め、受験する自治体の過去問の問題集を解いて傾向をつかんだり、穴埋め問題を自ら作成したりして準備を進めました。



Q: 専攻の学修とどのように折り合いをつけて取り組んできたのですか？



A: 完璧主義に陥らないようにしました。忙しい時は、「無理なものは無理」と自分を納得させました。

A: 専攻の時間と受験勉強の時間をはっきり区分けして、前向きに両立を図るように努めました。



今年度の教員採用試験対策セミナーの予定

教採セミナーは、教員採用試験を受験するかどうか悩んでいる、教員を進路の選択肢の一つとして考えていたりする学生の参加を随時募集しています。今年度のセミナーは残り2回。

○日時: 令和8年1月19日（月）午後4時～ 教職支援室隣

○日時: 令和8年1月26日（月）午後4時～ 教職支援室隣

また、受験に向けての相談も随時行っていますので、気軽に教職支援室までお越しください。